授業科目	視能学実習【視能】	担当教員	遠藤　弘毅		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	学内検診実習・模擬実習・OSCE などの臨地実習の準備を通して、臨床現場で対応できる知識・技術・態度を身につける。				
到達目標	①臨地実習または臨床現場にて必要な知識について説明できる。 ②臨地実習または臨床現場において必要な検査を実施できる。				
テキスト・参考図書等	・担当者ごとに配付するプリント ・これまでに履修した科目の教科書および参考図書・授業資料				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	①実習前到達度確認試験 40% ②実技試験 60%
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項	①検診実習時の報告・連絡・相談は密に行うこと。また、気が付いたことは常にメモすること。 ②検診実習終了後の振り返りを行い、必要な知識・技術・態度を身に付けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	実習前知識 1（佐藤）	概要、略語、眼球断面図
2	実習前知識 2（川岸）	公衆衛生
3	実習前知識 3（松田）	解剖
4	実習前知識 4（川岸）	医療面接・安全管理
5	実習前知識 5（四宮）	視力・屈折
6	実習前知識 6（川岸）	緑内障
7	実習前知識 7（山田）	網膜疾患
8	実習前知識 8（佐藤）	臨床問題
9	臨地実習準備 1（四宮）	視力検査
10	臨地実習準備 2（佐藤）	眼位検査
11	臨地実習準備 3（川岸）	視野検査
12	視能矯正の実際 1（金谷）	斜視の検査について 1
13	視能矯正の実際 2（金谷）	斜視の検査について 2
14	視能矯正の実際 3（金谷）	斜視の検査について 3
15	視能矯正の実際 4（金谷）	斜視の検査について 4
16	学内検診実習 1(佐藤)	1 年生　検診実習 1
17	学内検診実習 2(佐藤)	1 年生　検診実習 2

	18	学内検診実習 3(佐藤)	1 年生 検診実習 3
	19	学内検診実習 4(佐藤)	1 年生 検診実習 4
	20	学内検診実習 5(佐藤)	学内検診ディスカッション
	21	学内検診実習 6(佐藤)	救急救命学科検診実習 1
	22	学内検診実習 7(佐藤)	救急救命学科検診実習 2
	23	客観的臨床能力試験 OSCE1（専任教員）	実習初日・マナー
	24	客観的臨床能力試験 OSCE2（専任教員）	医療面接
	25	客観的臨床能力試験 OSCE3（専任教員）	他覚的屈折検査・眼圧検査
	26	客観的臨床能力試験 OSCE4（専任教員）	他覚的屈折検査・眼圧検査
	27	客観的臨床能力試験 OSCE5（専任教員）	HFA
	28	客観的臨床能力試験 OSCE6（専任教員）	まとめ
	29	視野検査 1（川岸）	実習前に必要な視野検査の知識
	30	視野検査 2（川岸）	実習前に必要な視野検査の知識
	31	臨地実習の実際 1（遠藤）	臨地実習前の心構え
	32	臨地実習の実際 2（遠藤）	臨地実習前の心構え
	33	実習前知識 9（佐藤）	到達度確認
	34	実習前知識 10（佐藤）	到達度確認
	35	眼鏡光学（小山）	眼鏡の基礎知識
	36	眼鏡光学（小山）	眼鏡の基礎知識
	37	眼鏡光学（小山）	眼鏡の基礎知識
	38	眼鏡光学（小山）	眼鏡の基礎知識
	39	臨床的視能矯正 1（大野）	ケーススタディ 1
	40	臨床的視能矯正 2（大野）	ケーススタディ 2
	41	臨床的視能矯正 3（大野）	視力・眼位・両眼視機能の連動について
	42	臨床的視能矯正 4（大野）	立体視検査の比較
	43	臨地実習準備（橋本）	臨床における OCT の実際
	44	臨地実習準備（橋本）	臨床におけるハンフリー視野検査の実際
	45	まとめ（専任教員）	まとめ

授業科目	視能学実習【視能】	担当教員 実務経験	佐藤幸恵 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視能学特論【視能】	担当教員	佐藤　幸恵		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	臨床で活躍できる視能訓練士となるために視能矯正の知識を深めて統合し総合的な能力を養う。				
到達目標	視能訓練士として必要な視能矯正の知識を臨床的に説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・担当者ごとに配付するプリント ・これまでに履修した科目の教科書および参考図書・授業資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	確認試験 100%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	各講師ごとの予習・復習を欠かさないこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	2	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	3	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	4	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	5	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	6	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	7	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	8	症例発表会（専任教員）	症例発表準備
	9	症例発表会（大野）	症例発表会
	10	症例発表会（大野）	症例発表会
	11	神経眼科 1（橋本）	脳神経外科でみられる眼科異常
	12	神経眼科 2（橋本）	脳神経外科でみられる眼科異常
	13	神経眼科 3（橋本）	原因不明の視力低下の見方
	14	神経眼科 4（橋本）	原因不明の視力低下の見方
	15	斜視手術 1（川田）	斜視手術の基礎、分野、合併症
	16	斜視手術 2（川田）	斜視手術の基礎
	17	斜視手術 3（川田）	斜視手術の実際
	18	斜視手術 4（川田）	斜視治療
	19	眼科学 1（大庭）	眼球運動の生理
	20	眼科学 2（大庭）	眼球運動の生理
	21	眼科学 3（大庭）	眼球運動の病理 1

	22	眼科学 4（大庭）	眼球運動の病理 2
	23	眼科学 5（可児）	視覚生理 1
	24	眼科学 6（可児）	視覚生理 2
	25	眼科学 7（可児）	視覚生理 3
	26	眼科学 8（可児）	視覚生理 4
	27	斜視視能訓練総論 1（深井）	エビデンスに基づく矯正訓練、両眼視成立メカニズム
	28	斜視視能訓練総論 2（深井）	視覚入力・統合・出力系について
	29	斜視視能訓練総論 3（深井）	両眼視機能を回復させるためのトレーニングの原則・実際
	30	眼疾病（野田）	糖尿病網膜症の病態と治療

授業科目	視能学特論【視能】	担当教員 実務経験	野田航介 有：■　　無：□	眼科医師として眼科診療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	眼科施設実習【視能】	担当教員	佐藤　幸恵		
対象年次・学期	3 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	270 回	時間数	540 時間
授業目的	眼科施設実習の導入及び適応期にあたり、医療従事者に必要な行動様式を身に付ける。また各種の検査を臨床的に学ぶ。				
到達目標	①視能訓練士の業務内容と役割を説明できる。　②医療人としての心構え・マナー・態度を認識し、行動できる。　③眼科施設の各部署・職種ごとの役割を理解し、チーム医療として認識している。　④主な検査・訓練の目的について説明できる。　⑤情報の伝達・報告方法を学び必要な行動が取れる。　⑥分からないことは積極的に調べている。				
テキスト・参考図書等	これまでに履修した科目の教科書および参考図書、授業資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	①実習指導者による実習態度・知識・技術の評価 80% ②本校専任教員による実習記録・症例記録の評価 20%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	100	

履修上の留意事項	①各教科書及び授業資料により、1・2 年時の復習・予習をするとともに実習に関する資料や施設のホームページを参考に、各施設の特性や業務の概要を理解しておくこと。　②実習指導者また学校への報告・連絡・相談を行うこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	各施設の実習指導者の指示に従い実習を行う	
	2	※各施設 1～4 人に分けて、大学病院・総合病院・個人眼科等の 3 施設において実習を行う	
	3	※実習時間は 540 時間とする。ただし各施設の実習日程に従う。	
	4	※各施設において実習指導者から実習中止の判断があった場合、その後の実習を中止し再開しない。	
	5	※各施設の評価が 59 点以下の場合は学内で指導を行い、その状況によって実習を再開するか判断する。	
	6	笑顔で挨拶し、すべての患者に配慮し、優しく接することを実践する。	
	7	各職種の業務内容や役割を理解した上で、視能訓練士に求められる行動規範を学び身につける。	
	8	眼科施設の役割と特色を認識し、眼科臨床の現場を知る。	
	9	基本的な検査（視力、屈折、色覚など）について、説明や検査を学ぶ。	
	10	眼科臨床の流れを理解し、その流れに従って業務遂行することを学ぶ。	

授業科目	眼科施設実習【視能】	担当教員 実務経験	各施設実習指導者 有：■　　無：□	眼科医師･視能訓練士として眼科診療･眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	教養III【視能】	担当教員	高野　文子		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	①臨地実習前に視能訓練士業務、実習において必要とされる知識・心構え・接遇・マナーについて学ぶ。 ②就職活動時に必要な知識について学ぶ。				
到達目標	①臨地実習時に必要とされる心構え・接遇・マナーを実施できる。　②就職活動時に必要な知識について学び、実施できる。				
テキスト・参考図書等	担当者ごとに配付するプリント・これまでに履修した科目の教科書および参考図書・授業資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	レポート 100%
	レポート	100	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	①臨地実習前の大切な期間に講義を行う。各講義真剣に取り組み臨地実習に向けての心構えを各自作る。　②自己分析を行い就職活動時期にすぐに準備できるようにする。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	眼科施設実習概要 1（専任教員）	実習要領 1
	2	確認問題 1（専任教員）	学力判定演習
	3	確認問題 2（専任教員）	学力判定演習
	4	確認問題 3（専任教員）	学力判定演習
	5	確認問題 4（専任教員）	学力判定演習
	6	就職活動概要 1（専任教員）	就職活動ガイダンス
	7	就職活動概要 2（専任教員）	履歴書作成
	8	就職活動概要 3（専任教員）	履歴書作成
	9	就職活動概要 4（廣瀬）	就職の身だしなみ・メイク
	10	就職活動準備 1（高野）	エゴグラム指導・自分を知る五つの意義・二つの魅力（美点と欠点）・自己紹介と他己紹介
	11	就職活動準備 2（高野）	性質と性格・人から見た自分・棚卸しシートの作り方と見方・感情と行動からの自己探求・自分らしい選択
	12	就職活動準備 3（高野）	相手の思いを知る・あなたが伝える思い・共感と感動・感動はどこからくるのか・説得力の正体／エピソード（根拠）・積み重ねた思い（覚悟）・本気度／面接の落とし穴
	13	就職活動準備 4（高野）	表情・態度・姿勢・身だしなみ・面接の心得
	14	就職活動準備 5（高野）	模擬面接・講評・360 度アドバイス
	15	就職活動準備 6（高野）	模擬面接・講評・360 度アドバイス
	16	実習対策 1（高野）	ホウ・レン・ソウの必要性・ホウ・レン・ソウの基本・質

			問の仕方・実習先でのコミュニケーション
	17	実習対策 2（高野）	あいさつ・立ち居ふるまい・言葉づかい・電話応対の実践・お礼状の書き方
	18	医療従事者コミュニケーション基礎（高野）	患者さんとのコミュニケーション・医療現場の行動経済学・自分の思いを知る・患者さんの思いを想像する・不安を取り除く・アサーティブコミュニケーション
	19	医療従事者コミュニケーション実践（高野）	信頼関係を築くコミュケーションスキル（承認のスキル・傾聴のスキル・傾聴の留意点）・質問の効果・質問のスキル・他職種とのコミュニケーション・他職種連携とチームワーク・場面別シミュレーション
	20	臨地実習準備（沼田）	臨床の実際
	21	臨地実習準備（沼田）	臨床における眼科検査
	22	視野検査（専任教員）カールツァイス	HFA・OCT
	23	視野検査（専任教員）カールツァイス	HFA・OCT
	24	臨地実習の実際（専任教員）	コンタクトレンズケア　オフテクス
	25	臨地実習の実際（専任教員）	コンタクトレンズケア　オフテクス
	26	眼科施設実習概要 2（専任教員）	実習要領 2
	27	眼科施設実習概要 3（専任教員）	実習要領 3
	28	眼科施設実習概要 4（専任教員）	実習要領 4
	29	眼科施設実習概要 5（専任教員）	実習に向けて 1　決意表明作成
	30	眼科施設実習概要 6（専任教員）	実習に向けて 2　登院式について

授業科目	教養III【視能】	担当教員 実務経験	松田理恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	視能学【視能】	担当教員	川岸　寿幸		
対象年次・学期	3 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	90 回	時間数	180 時間
授業目的	臨床で活躍できる視能訓練士となるために、視能学の各分野の知識を深め、応用して考えられる能力を養う。各分野の知識を統合し、総合的な能力を養う。				
到達目標	講義 演習を通して、視能訓練士として必要な知識をすべて説明できる。				
テキスト・参考図書等	・担当者ごとに配付するプリント ・これまでに履修した科目の教科書および参考図書・授業資料				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	100	卒業試験 4 回の平均点をもって評価をする
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	0	

履修上の留意事項

①各科目の復習をし、科目確認試験は真剣に取り組むこと。試験終了後は分からないことをそのままにせず、必ず見直すこと。
②視能訓練士になるにあたり、各科目ノートづくりを行うことが望ましい。ノートづくりを通して臨床に向けて知識をつけること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	問題解説（四宮）	AC/A 比の POINT 解説、練習問題
2	ランドルト環（四宮）	視角と視力、ランドルト環の計算、ポイントと解説、練習問題
3	視力検査（四宮）	logMAR、縞視力、ETDRS チャート
4	屈折・調節（四宮）	屈折力・調節力の計算
5	レンズ光学 1（四宮）	vergence、主要点・拡大縮小効果、倍率、プリズム、プレンティス
6	レンズ光学 2（四宮）	眼球光学、参照軸・角度、入射瞳、Purkinje-Sanson 像、収差
7	角膜内皮細胞検査（四宮）	角膜の基礎、角膜内皮細胞検査
8	眼圧検査（四宮）	房水、眼圧、眼圧検査
9	眼軸長検査（四宮）	種々の眼軸長検査とその特徴
10	眼球突出検査（四宮）	眼球突出、Hertel 眼球突出計
11	検影法 1（四宮）	検影法の基礎
12	検影法 2（四宮）	検影法の応用
13	頂間距離とレンズ度数（四宮）	頂間距離の計算
14	二重焦点眼鏡の明視域（四宮）	明視域の計算
15	対光反応・瞳孔 1（四宮）	対光反射の基礎
16	対光反応・瞳孔 2（四宮）	疾病
17	視覚生理学（川岸）	視覚生理学について、錐体・杆体について
18	光覚 1(川岸)	明順応、暗順応、暗順応のメカニズム
19	光覚 2(川岸)	暗順応曲線、夜盲の疾患について
20	色覚 1(川岸)	色覚について、正常色覚、色覚異常について
21	色覚 2（川岸）	色覚検査、仮性同色表、色相配列検査、アノマロスコープ

	22	電気生理学検査 1（川岸）	網膜電位図
	23	電気生理学検査 2（川岸）	眼球電位図
	24	電気生理学検査 3(川岸)	視覚誘発電位、筋電図
	25	視野 1（川岸）	静的視野・動的視野、測定法
	26	視野 2（川岸）	視野異常
	27	眼疾患 1（川岸）	緑内障、網膜色素変性症
	28	眼疾患 2（川岸）	視神経炎、視覚伝導路
	29	眼疾患 3（川岸）	心因性視能障害
	30	視能検査（川岸）	涙液検査、中心フリッカー検査
	31	ロービジョン 1（川岸）	身体障害者福祉法
	32	ロービジョン 2（川岸）	ロービジョンエイド
	33	結膜、眼瞼の疾患（山田）	コンタクトレンズによる障害、ウイルス性結膜炎
	34	白色瞳孔（山田）	コーツ病、コロボーマ、網膜芽細胞腫、未熟児網膜症、第 1 次硝子体過形成遺残
	35	糖尿病網膜症（山田）	単純網膜症、増殖前網膜症、増殖前網膜症
	36	静脈・動脈閉塞症（山田）	BRVO、CRVO、BRAO、CRAO
	37	中心視野（山田）	黄斑部疾患とアムスラーチャート
	38	黄斑部疾患 1（山田）	加齢黄斑変性
	39	黄斑部疾患 2（山田）	中心性漿液性脈絡膜症
	40	網膜疾患 1（山田）	後部硝子体剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、網膜剥離
	41	網膜疾患 2（山田）	網膜疾患における眼底写真の特徴
	42	眼底疾患（山田）	画像診断、FA/IA、OCT による鑑別
	43	他覚的屈折検査（山田）	CL 矯正に必要な知識、全乱視＝角膜乱視+水晶体乱視
	44	コンタクトレンズ 1（山田）	HCL について、BC と POWER の関係、フィッティング、ケア、使用方法
	45	コンタクトレンズ 2（山田）	SCL について　SCLTC 軸の回旋、フィッティング、ケア、使用方法
	46	眼鏡（山田）	眼鏡合わせについて
	47	屈折矯正レンズ（山田）	調節力、眼鏡と CL の度数換算
	48	色覚検査（山田）	アノマロスコープによる色覚異常検査について
	49	視器の構造（松田）	眼球、眼球付属器、血液循環、発生
	50	薬理学（松田）	点眼薬の基礎、散瞳薬、縮瞳薬
	51	薬理学（松田）	感染症治療薬、アレルギー治療薬、炎症治療薬、緑内障治療薬
	52	脳と神経（松田）	中枢神経系の構造、脳神経の機能
	53	脳と神経（松田）	脳の血液循環、神経筋接合部
	54	免疫（松田）	免疫機構
	55	内分泌（松田）	内分泌系
	56	視覚生理学（松田）	光受容機構、感覚
	57	遺伝（松田）	DNA、遺伝子、タンパク質合成、遺伝の法則、ミトコンドリア遺伝子
	58	光学（松田）	凸ンズ、凹レンズ、焦点、凸面鏡、凹面鏡、光の性質、スネルの法則
	59	斜視手術 1（佐藤）	斜視手術の目的・禁忌、種類、合併症
	60	斜視手術 2（佐藤）	各術式について（弱化術・強化術、筋移動術他）、ボツリヌス毒素について
	61	眼振 1（佐藤）	眼振の種類

	62	眼振 2（佐藤）	眼振の治療（プリズム治療、眼振手術）、記載法
	63	プリズム合成（佐藤）	斜視におけるプリズム合成
	64	斜視各論 1（佐藤）	共同性斜視の種類、治療
	65	斜視各論 2（佐藤）	共同性斜視の種類、治療
	66	眼位検査 1（佐藤）	角膜反射を利用した検査、遮閉試験
	67	眼位検査 2（佐藤）	大型弱視鏡、正切尺、Maddox 杆を用いた検査　回旋偏位検査
	68	両眼視について（佐藤）	正常両眼視について（Panum の融像感覚圏、ホロプター）
	69	両眼視機能検査 1（佐藤）	各種網膜対応検査
	70	両眼視機能検査 2（佐藤）	大型弱視鏡による検査について　抑制、不等像検査
	71	斜視訓練 1（佐藤）	大型弱視鏡を用いた斜視訓練
	72	斜視訓練 2（佐藤）	大型弱視鏡を用いない斜視訓練
	73	子供の視機能について（佐藤）	視力、両眼視機能の発達、幼小児の視力検査法
	74	特殊疾患（佐藤）	IgG4 関連眼疾患、急性内斜視、Sagging eye syndrome 等
	75	眼球運動 1（佐久間）	外眼筋の解剖、作用
	76	眼球運動 2（佐久間）	単眼性眼球運動、両眼性眼球運動
	77	眼球運動検査 1（佐久間）	9 方向むき眼位、Parks 3step test
	78	眼球運動検査 2（佐久間）	HESS、複像検査
	79	斜視 1（佐久間）	麻痺性斜視（核上性）
	80	斜視 2（佐久間）	麻痺性斜視（核上性）
	81	斜視 3（佐久間）	麻痺性斜視（核・核下性）
	82	斜視 4（佐久間）	麻痺性斜視（核・核下性）
	83	斜視 5（佐久間）	特殊型斜視（Duane 症候群、Brown 症候群）
	84	斜視 6（佐久間）	特殊型斜視（重症筋無力症、甲状腺眼症、眼窩吹き抜け骨折）
	85	頭位異常（佐久間）	種類、検査、治療
	86	弱視 1（佐久間）	種類、検査、治療
	87	弱視 2（佐久間）	種類、検査、治療
	88	弱視 3（佐久間）	固視訓練、ペナリゼーション
	89	瞳孔 1（佐久間）	病的散瞳・縮瞳
	90	瞳孔 2（佐久間）	交互点滅対光反射試験

授業科目	視能学【視能】	担当教員 実務経験	山田正幸 有：■　　無：□	視能訓練士として眼科検査業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		